

袋 建 設 第 295 号

平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 殿

袋井市長 原田 英



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号により依頼のあった標記について、別紙のとおり回答書を送付しますのでよろしくお願いします。

問合せ先 都市建設部建設課
課長補佐 朝平 清
TEL:0538-44-3131
FAX:0538-42-3367

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

様式 ①

静岡県袋井市

<改善すべき点>

①道路財源について

道路整備には多額の財源が必要ですが、国の道路財源がどのように配分されているのか、国民にわかりにくい状況であると思います。都市部であれ地方部であれ、道路整備の必要性を訴える声には変わりがありません。国民にわかりやすい道路財源の配分の基準を示し、真に必要な道路財源を確保し、加えて、地方の裁量により道路整備を進められるように国の道路財源は地方への移譲を進めるべきだと考えます。

②道路事業の情報公開、広報について

道路事業を国民に身近で信頼されるものにするために、現行の事業評価システムをわかりやすいものに改善するとともに、さらなる情報公開や広報の充実を図るべきだと考えます。

<要望>

①柔軟な道路整備について

道路は建設から維持管理まで多額の費用がかかりますが、少子高齢化や人口減少、市の財政の逼迫などの状況を考えると、投資額には自ずと制約が働きます。一方、道路には安全に人や車両を通行させる機能が必須で、そのための諸基準が整備されています。近年、基準の緩和や弾力的運用が進められていますが、少ない投資で大きな効果を生むべくさらなる運用の充実を要望します。

②中心市街地活性化について

他の多くの地方都市と同様、本市の中心市街地(JR袋井駅を中心にした区域)も長年沈滞の傾向にあります。中心市街地活性化には地域や行政がさまざまなアイデアや智恵を出し合い協働して事に当たる必要があります。そのなかで道路整備は行政の果たす大きな役割であり、改良整備、リニューアルなど財政支援の充実を要望します。

○現状

袋井市の幹線道路網は、南北方向の主要地方道袋井春野線と袋井大須賀線、東西方向の国道1号バイパス線と国道150号線を基軸とし、これらに一般県道と幹線市道が縦横に配置されることにより形成されています。

袋井市都市計画マスタープラン(平成20年3月策定、目標年次H37)では、市内に四つの都市拠点(袋井駅周辺を中心核、上山梨地区周辺の北部副次核、愛野駅周辺の東部副次核、浅羽支所周辺の南部副次核)を配置し、これらの拠点を中心に、にぎわいと活力あふれる多機能な都市を創造していくこととしています。

都市構造の骨格となる道路に関しては、従来より国、県、市の各管理者において着実に整備を行ってきたとはいうものの、未だに幅員が狭く交通量に比して狭隘な区間、高齢者や幼少児童の通行に危険な歩道のない道路、日常的に渋滞が発生する区間などが数多く存在するという現状です。

○課題

左欄の現状に加え、少子高齢化や地球環境問題、厳しい道路財源など全国的に共通な道路を取り巻く環境が大きく変わる中で、本市には道路整備に関し次のような課題があります。

- (1)平成24年供用の第二東名自動車道森掛川ICとのアクセス道路の整備を推進する必要がある。
- (2)市内四箇所の都市拠点を連絡する幹線道路の整備が不十分である。
- (3)JR袋井駅へ南方面からのアクセスする道路の整備が急務である。
- (4)高齢者、幼少児童が安心して通行できるよう、危険箇所の解消と安全な道路の整備が必要である。
- (5)渋滞の解消など交通の円滑化が必要な区域がある。
- (6)災害時に緊急輸送路となる道路について万全な対策が必要である。
- (7)市街地における無電柱化対応が遅れている。

袋井市総合計画（平成18年9月策定、H18～H27、前期基本計画H18～H22）では、中東遠地域の発展に貢献できる中軸都市を目指して、「人も自然も美しく 活力あふれる 日本一健康文化都市」をまちの将来像として掲げています。

このうち、道路に関する計画としては、「利便性が高く快適に暮らせるまちづくり」を政策目標とし、この実現のために「利便性の高い交通ネットワークの構築」を施策とし掲げ、施策の基本方針として①JR袋井駅舎及び周辺地区の整備と②市内外の交通を円滑にする幹線道路網の整備のふたつを掲げています。

総合計画で定めた道路施策を実現するため、道路整備の個別計画である袋井市道路整備10箇年計画（平成19年3月策定、H18～H27）では、次の5項目を道路整備の基本方針としています。

- (1) 国道、県道をはじめ周辺市町との広域交通体系を受けた道路整備を推進する。
 - (2) 市内の四つの都市拠点へアクセスし、公共交通と連携した道路整備を実現する。
 - (3) 渋滞区間を解消し快適な居住環境を確保するとともに、美しい景観の形成に寄与する道路整備を推進する。
 - (4) 少子高齢化に対応し交通弱者へ配慮するとともに、災害時の緊急輸送路の確保など、市民が安全で安心できる暮らしを確保するための道路整備を推進する。
 - (5) 「まちづくり重点プロジェクト」の実現と、地域の観光や産業振興に資する道路整備を推進する。
- これらに対応した10箇年整備の対象路線や区間延長などの数値目標を設定しています。（記載省略）

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

静岡県袋井市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
1 渋滞解消	国道1号バイパス線の四車線化と高架化による渋滞解消	・ 渋滞緩和によるCO₂の削減 ・ アクセス時間短縮による交流連携と生活圏の拡大 ・ 観光振興の促進	
2 広域交通体系	第二東名自動車道森掛川 IC とのアクセス道路の整備	・ 渋滞緩和によるCO₂の削減 ・ 産業立地の促進 ・ 土地利用の促進 ・ アクセス時間短縮による交流連携と生活圏の拡大 ・ 観光振興の促進	
3 中心市街地の基盤整備	JR 袋井駅南口へのアクセス道路の整備	・ 中心市街地の活性化 ・ 土地利用の促進 ・ 密集市街地の解消 ・ 防災力の向上 ・ 新市における一体感の創出	